

Title	天象
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1936), 17(188): 75-76
Issue Date	1936-11-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/167372
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher



I——太陽と月 (京都に於る値)

日附	日出	日没	(星 座)	日附	月 齢 (21時)	月 出	月 没	(星 座)
日	時 分	時 分		日	時 分	時 分		
1	6:46	16:45	(さそり)	1	16.8	19:30	9:4	(双 子)
6	6:51	16:45	"	2	17.8	20:36	9:51	" (に)
11	6:55	16:46	(蛇 遣 ひ)	3	18.8	21:39	10:31	(か 子)
16	6:58	16:47	"	4	19.8	22:40	11:7	(獅 子)
21	7:1	16:49	(い て)	5	20.8	23:39	11:37	(六 分 儀)
26	7:3	16:52	"	6	21.8	—	12:5	(獅 子)
(翌1)	7:5	16:55	"	7	22.8	0:35	12:33	(乙 女)
				8	23.8	1:31	13:1	"
				9	24.8	2:27	13:31	"
				10	25.8	3:22	14:5	"
				11	26.8	4:18	14:43	(天 秤)
				12	27.8	5:13	15:24	"
				13	28.8	6:8	16:10	(さそり)
				14	0.0	6:59	17:2	(蛇 遣 ひ)
				15	1.0	7:46	17:57	(射 手)
				16	2.0	8:31	18:57	"
				17	3.0	9:11	19:58	(山 羊)
				18	4.0	9:47	20:59	(水 瓶)
				19	5.0	10:20	22:1	"
				20	6.0	10:52	23:5	(魚)
				21	7.0	11:24	—	"
				22	8.0	11:57	0:10	"
				23	9.0	12:35	1:17	(羊)
				24	10.0	13:7	2:26	"
				25	11.0	14:4	3:35	(牡 牛)
				26	12.0	14:59	4:44	"
				27	13.0	16:0	5:50	(双 子)
				28	14.0	17:6	6:49	"
				29	15.0	18:13	7:40	"
				30	16.0	19:20	8:24	(か に)
				31	17.0	20:23	9:3	"

II——天象

日 時	
8, 一	土星が東矩
8, 22	火星が北7°で月と合
11, 23	水星が南2.3°で木星と合
14, 8	金環食(日本では見えぬ)
15, 16	水星が南4°で月と合
18, 2	金星が南6°で月と合
21, 4	土星が南8°で月と合
21 一	海王星が停留
22, 9	冬至
27	木星が會合
29	水星が極大離角(東20°)
29	土星環の再消失

下 弦 6日, 3時:20分
上 弦 21日, 20時:30分

新 月 14日, 8時:25分
滿 月 28日, 13時:0分

主な流星群

日 附	赤 經	赤 緯	附近の星	性 質
上 旬	156°	+37°	大熊座 μ 星	速
11日—15日	108	+33	双子座 θ 星	速, 著
上旬—中旬	119	+29	双子座 β 星	速

遊 星 界 (12月)

水星 暫らく見えなかつたこの星は、12月に入つて太陽の東側に現れ、中旬には宵の西空に發見するやうになる。11日本星の北側を 2.5° 離れて會合し、月末29日には最大離角となる。光度は負0.5等であるから見出し易い。

金星 「宵の明星」としての愈々勇勢を示す。光度負3.6等で、この月、射手座から山羊座に移り、東天に昇つたシリウスとその光輝を競ふて寒い夜空の美觀であらう。

火星 早くも火星表面の觀察界に「白雲發見」で活氣を見せてゐるこの星は、曉の東天にアノ眞紅の光芒を放つて、漸く話題の中心たらんとしてゐる。乙女座スピカの北側を順行してゐる1.6等の星で、曉天の見物であらう。

木星 黄道上を金星の西側に雄々順行中の木星の觀察は本月中旬まで、それ以後太陽に近づき見え難くなる。27日會合となつて全く見えない。負1.3等の光輝は宵の西空に明星と違はないやうに!!

土星 日が暮れると東天に昇つてゐる。有名な環の消失で、本年中の話題を滞つてゐるこの星は本月28-29日、再び消失される。こんどは是非ともこの絶好のチャンスを見逃されぬ様、望遠鏡所持者に望んでおく。光度1.3等、望遠鏡裡に何時見ても愛らしいのは土星のみ。

天王星 鯨座 ρ 星の西に6.1等の淡い姿をみせてゐる。双眼鏡所持の方に觀察をお薦めする。

海王星 獅子座とコツプ座との間にあり、光度7.7等。

冥王星 乙女座スピカの南西 12° の處にジツとしてゐる。

星座 震たばしる師走の寒夜なれど、暖爐を外に星光に親しむは冬夜に限る。も早や晩秋の名残りの星座は大凡、西に移り、冬の銀河が南東から北西に流れてゐる。この銀河中には實に見事な大星座が居並ぶ。——「オリオン」の雄、「牡牛」の壯、「双子」の愛、「カシオペア」の美、「ペルセ」の勇、「駁者」の武等々。その上銀河を挟んで「大犬」のシリウス、「小犬」のプロシオンの輝星の出現は全天を明朗化する。

(葵 星)